【中野人インタビュー】日本民踊 鳳蝶流 家元師範 鳳蝶美成氏

2022.02.17 UP 東京メトロ丸ノ内線沿線エリア **投稿者：**まるっと中野編集部
[中野人]

みなさんは“日本民踊”と聞いて、どんなイメージを思い浮かべるでしょうか。“日本舞踊”と混同してしまうかもしれませんが、歌舞伎のルーツ中から発生したものが日本舞踊、日本を代表する伝統芸能の一つともなっています。

それに対し日本民踊とは、戦後に生まれた名称で“民の舞踊”という名前の示す通り、その土地で自然に生まれ定着した、大衆の踊りのことを指します。馴染み深いものとしては各地の“盆踊り”もこれにあたります。民踊はその土地における一種の文化遺産のようなものともいえますが、少子高齢化やまちの過疎化により、こうした民踊に参加する人口が減りつつあります。

今回の中野人は、日本民踊 鳳蝶流の家元師範でもあり、「中野駅前大盆踊り大会」の企画発案者でもある、鳳蝶美成（あげは びじょう）さんにお話を伺います。

日本民踊 鳳蝶流とは

–まず最初に鳳蝶についてお聞きしてもいいでしょうか

「鳳蝶流は日本民踊の流派の一つとして、私と母で立ち上げました。私と母はもともと同じく日本民踊の流派の一つの石川流派で活動していましたが、2013年に独立しました。日本舞踊は一言で言うと、見せる文化と言えます。もともと河原で踊りを人々に見せるところから歴史が始まり、それが歌舞伎舞踊として舞台で行われるものへと変わっていきました。それに対し民謡舞踊はみんなで楽しむ、悲しむ、豊作を祈る…といった、思いや感情を共有するために行うものです。コミュニティの形成へとつながる、そんな文化の一つといえるのではないでしょうか」

–盆踊りも日本民踊ということでしょうか

「はい、そうです。というより日本民踊の背景にあるのが盆踊りです。娯楽があまり無かった昔、先祖の霊を敬うために歌ったり踊ったりすることは、数少ない楽しみの一つであり、それはやがて各村により特色のある発展をしていきます。盆踊りにも色々な違いがあり、日本三大盆踊りといわれる「阿波踊り」「郡上踊り（ぐじょうおどり）」「西馬音内の盆踊り（にしもないのぼんおどり）」も、踊り方からテンポまで全然違いますからね。踊りを見て、当時のその土地のコミュニティや文化の様子を想像するのもおもしろいですよ」

–いつから踊りの世界に入られたんですか

「僕は６歳から踊りを学んできました。高校でも演劇などに携わり、芸術学部に進んだ大学の卒論では、これまでの集大成として、「郡上踊り（ぐじょうおどり）」について発表するため、発祥の地である岐阜県まで研究に行きました。そこで驚いたのは、生演奏です。都心の方で行われる盆踊りで生演奏はほとんどないと思います。郡上の保存会は歌や踊りを本当に大切にしていて、若い人も先頭に立って踊っているんです。その強い思いとエネルギーに衝撃を受けましたね。こう言ってはなんですが、文化の違いを見せつけられた思いがしましたね。
大学を卒業後、僕は着物の卸問屋に勤めたのですが、岐阜で感じた“東京でも同じくらい熱を持った大会をしたい！”という思いがだんだんと強くなりました。また、歴史のある日本民踊や民謡に関わる人の数はどんどん少なくなり、これをなんとか盛り上げたいという気持ちも強くなりました。その後会社を退職し、鳳蝶流として本格的に活動を始めました。そう言う意味では僕の踊りの人生は、ここがスタートかなと思います。」

中野だからこそできた“中野駅前大盆踊り大会”

–東京で日本民踊を盛り上げるためにどのような活動をされてきたんですか

「最初に始めたのは、“東京音頭”の踊り方をYouTubeを使って配信することでした。これにより、鳳蝶流の教室も少しずつ盛り上がりを見せました。盆踊りについても注目が集まり、もっと広く周知したいと思いました。そして企画立案したのが、生演奏による盆踊り大会「中野駅前大盆踊り大会」です。中野区民謡連盟では、東京では珍しかった生演奏による活動が主流でしたので、当時の会長に相談したんです。すると、会長も民謡や民踊の大会を開催しても人が全然集まらず、集まっても若い方には来てもらえないといった状況に、すごくはがゆい思いをしているとおっしゃって。」

「ちなみに、そもそもどうして生演奏が少ないかと言うと、天候が一番大きいです。三味線なんかは１つ２０万円以上しますが、雨に濡れるとダメになってしまいます。でも、やっぱり生演奏のチカラは大きい。空気が震えると言うか、迫力が全然違いますし、生演奏ならそれを目当てに来る人だってたくさんいます。だからこそ、盆踊りや民謡をもっと盛り上げていくには生演奏のチカラがどうしても必要だ、生演奏をコンセプトに盆踊り大会を立ち上げましょう、と。“中野音頭（正式名称：中野区民歌謡）”を大事に思っていた会長は、企画にとても賛同してくださいました。」

–中野駅前大盆踊り大会も次回で10回目となりますね。

「中野駅前大盆踊り大会は2013年に第1回目を行いました。大会でも踊る“中野音頭”は、昭和２０年頃にできた、中野の四季や地域の様子を表現した中野区民歌謡に振り付けを加えたものです。地元の人なら、一度は聞いたことがある曲じゃないでしょうか。そうして中野駅前大盆踊り大会はだんだん多くの人が集まるようになり、最初の頃に比べ若い参加者もどんどん増えてきました。あの”ボン・ジョヴィ”がリツイートしてくれたことも盛り上がりに繋がりましたね！中野駅前大盆踊り大会では、伝統的な民謡をつかった踊りだけでなく、現代カルチャーとの融合も図っています。例えば、ディスコミュージックで盆踊りを踊ったり、洋楽と踊りをコラボさせたりなどです。歌や踊りは全世界共通の“楽しさ”です。表現方法に違いはありますが、根源にある思いは同じです。だからこそ”和”の音楽（曲）を、”洋”の楽器で弾いたら和の文化が消滅してしまう、ってことはないと思うんです。そう言った考えから、僕は日本民踊という文化活動を行うにあたって、”洋”という手段を用いたりするのはアリだと思っています。新しい手法がこれまで興味がなかった人たちに知ってもらうきっかけになり、その文化の本質への理解を深める可能性もあると思っています。文化の継承にこそ、変化は必要なんです。そんな思いで第６回（2018年）の大会を行ったのですが、『ボン・ジョヴィの曲に合わせた盆踊り』、このツイートに本人が反応し、結果５万リツイート。ある有識者が『ボン・ジョヴィのボンは“盆（BON）だ”』なんて言ってくれました。世界に盆踊りがつながったのを感じましたよ（笑）おかげさまで、それまで交流のあったDJ.KOOさんはもちろん、中川翔子さんやザ・リーサルウェポンズさん達にもゲストで参加してもらえるようになりました」

2021年の中野駅前大盆踊り大会の様子

–今後、他にどのような活動をしていきたいと考えていますか

「現在、中野駅前大盆踊り大会以外には中野民謡民舞大会や、東北復興第祭典なかのといったイベントにも関わっています。これらの大会が中野の経済に還元していくようになれば、と思っています。そのためには、これらの大会をもっと大きく育てて、観光資源のひとつになるくらいにしたいですね。ただ2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、大きなイベントができなくなった時は悩みました。でも、せっかく盛り上がり始めた流れは消したくなかったので、YouTubeなどを使って毎日踊り方講座などをUPしていました。毎日家にこもりがちな運動不足を楽しく解消しながら、緊急事態を乗り切ろう！というコンセプトで。『BONストレッチ』というんですが、盆踊りで世界を変える、くらいの意気込みで取り組んでいます。今話題のSDGsなんかも取り入れてみたいですね。中野には２万人の在日外国人もいますし、やさしい日本語を教えながら踊りも学ぶ…なども。今はまだできることが限られていますが、いずれにせよ中野の社会的要素に結びつけて、地元の何か役に立ちたいと思っています。あ…あといつか、盆踊り参加人数のギネス記録も塗り替えたいと思っています。3000人くらいで踊る盆踊り大会をしたいですね！」

–本当に中野がお好きなんですね！

「もう３０年以上住んでいますしね（笑）。素敵なまちです。個人的には都会に一番近い下町、といったイメージですね。都心とは思えない人情味あふれるまちで、みなさん暖かく優しく、とても面倒見がいいんです。だからこそ一つにまとまる力も持っている。そういう意味では、中野駅前大盆踊り大会も中野だからこそできた大会、と言えるのではないでしょうか」
「中野にはこのままずっと中野らしくあって欲しいと思います。どこにもない文化を作り上げ、そしてそういう文化が似合うまちであり続けて欲しいです。今は中野駅前の方も再開発が進んでいます。もちろん踊りと同じで継承していくために新しい変化は必要です。でもその上で、オンリーワンである中野らしさは、残って欲しいですね。」

TOKYO２０２０閉会式で踊られた“東京音頭”、実は鳳蝶さんが振り付け担当。ステージ上でも踊っていました。
※写真のDVD”東京五輪音頭”は井手茂太さんが振り付け担当

【中野区のお気に入りスポット】

「“ゆきだるま”というお店がお気に入りです。ここのジンギスカンはアイスランド産の羊肉を使っていて、臭みがなくとても美味しいんです。あとは近所の“味わい屋”さんや“炙谷（あぶりや）”さんとか。なんか飲食店ばかりですね（笑）。でも中野は食がとっても充実して、個性的な個人経営のお店も多い。それも中野の魅力の一つですね」

★今回の中野人

鳳蝶美成（あげは・びじょう）

東京渋谷区出身

６歳より日本民踊舞踊を学び、高校時代に演劇・多方面にて活動。

日本大学芸術学部卒。

日本民踊鳳蝶流　家元師範

財団法人 日本民謡連盟　教授・公認アドバイザー

日本民踊・新舞踊連盟　指導員

★日本民踊 鳳蝶流の公式サイトはコチラ

※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。
　掲載場所近隣の区民の皆様に直接お問い合わせすることはご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。
※掲載情報は全て記事取材当時のものです。